

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 2 区分
 【発行日】平成 17 年 9 月 22 日 (2005.9.22)

【公開番号】特開 2000-30937 (P2000-30937A)

【公開日】平成 12 年 1 月 28 日 (2000.1.28)

【出願番号】特願 平 10-218517

【国際特許分類第 7 版】

H 0 1 F 7/20

A 6 1 B 5/055

G 0 1 R 33/387

G 0 1 R 33/389

G 0 1 R 33/20

【F I】

H 0 1 F 7/20 C

A 6 1 B 5/05 3 3 1

G 0 1 N 24/06 5 2 0 Y

G 0 1 N 24/06 5 3 0 Q

G 0 1 R 33/22

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 4 月 15 日 (2005.4.15)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 3】

上記 M R I 装置用の磁界発生装置において、空隙は被検者の一部又は全部が挿入できるだけの広さが必要であり、かつ鮮明な断層イメージを得るために、通常、空隙内の撮像視野内には、0.02 ~ 2.0 T でかつ 1×10^{-4} 以下の精度を有する安定した強力な均一磁界を形成することが要求される。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 4】

【実施例】

実施例 1

以下にこの発明の特徴を、図 1 A に示す一実施例に基づいて説明する。

磁界発生装置の継鉄は一对の板状継鉄 3, 3 端を板状の支持継鉄 4 で接続してあり、床 1 上に断熱用ゴムを介して脚部 2 が配置される構成である。磁界発生源として R - F e B 系磁石を用いた一对の永久磁石構成体 5, 5 を板状継鉄 3, 3 の対向面に着設し、各々の一方端に磁極片 6, 6 を固着して対向させ、磁極片 6, 6 間の空隙 8 内に、静磁界を発生させ、特に撮像空間 9 内に均一磁界を発生させる構成からなる。また、磁極片 6, 6 は環状突起 7 を有する構成で、図 3 の積層けい素鋼板のブロックにて形成されている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】図面

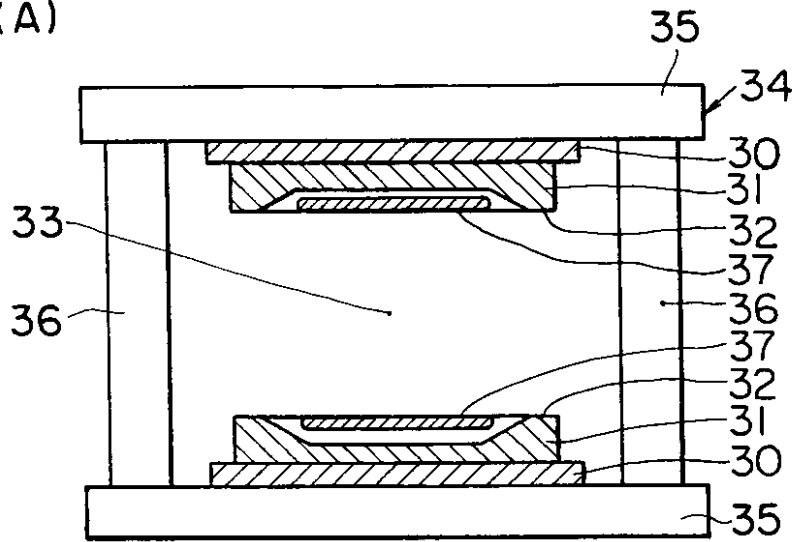
【補正対象項目名】図 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図5】

(A)



(B)

